

この検査では、『造影剤』という検査薬を使用します。以下の『造影剤の説明』をお読みになった後に、担当医がアレルギーの問診と検査の説明を致しますので、検査に同意されたら同意書に署名をお願い致します。

1. 造影剤とは何ですか？

造影検査にあたって写真を鮮明に、分かりやすくするための検査薬です。通常、静脈内に投与しますが、その他の投与方法もあります。静脈内に投与した場合、注射後6時間で約90%が尿として排泄されます。

2. 造影剤を使う利点は何でしょうか？

静脈内に注入された造影剤は、血管を通過して全身の臓器に分布します。したがって血管の状態、各臓器や病変部医での血流の状態がわかり、診断上重要な情報になります。また、他の投与方法でも病変部位の確認に有用です。

3. どのような人にも造影検査はできるのでしょうか？

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が約3倍多いといわれ、なかでも喘息の方は約10倍といわれています。

造影検査ができるかどうかは、担当医がお話をうかがった後、判断します。

4. 造影剤にはどのような副作用があるのでしょうか？

最近では副作用の少ないものが開発され用いられていますが、約3%の患者さまに何らかの副作用が生じる可能性があると言われております。多くは検査中や検査直後に生じ、その症状は、気分が悪くなったり、かゆくなったりといった軽いものがほとんどです。しかし、まれに冷や汗が出たり、胸が苦しくなったりすることがあります。また非常にまれですが、検査終了後数時間から数日たってから頭痛やじんましんがでることがあります。

5. もし副作用が出たらどう治療をするのですか？

ほとんどの場合無治療で改善しますが、必要に応じて抗アレルギー薬の投与や酸素投与などを行います。

6. その他

造影剤を急速注入するために、通常よりやや太めの血管留置針を刺入する場合があります。また、造影剤を急速注入する際には、腕や胸部に熱感を感じる事がありますが、通常1分以内に消失します。

(切り取り)

造影検査問診票

(担当医が記入します)

1. 今までに造影剤を用いた検査を受けた事がありますか？

なし あり (CT、MRI、血管造影、DIP、DIC、その他)

↓
副作用はありましたか？ なし あり ()

2. アレルギー体質、アレルギー疾患、あるいは腎疾患がありますか？

なし あり (喘息、蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、腎炎、腎不全、その他)

薬剤や食べ物によるアレルギー ()

※MRIの造影検査は原則として、喘息の既往がある患者さまは禁忌とします。

腎機能: (正常あるいはほぼ正常 ・ 明らかに低下)

判定

造影検査を 実施する 実施しない 判定医師 _____

造影検査同意書

上記説明を受け納得しましたので、この造影検査を受ける事に同意します。

平成 年 月 日

署名 _____ 本人・代理人 (続柄 _____)

説明者 _____ 同席者 _____